

授業で使える！ 日本の絵画 鑑賞のヒント

小中学校の先生方へ

京都国立博物館・NPO法人京都文化協会・京都市教育委員会は、平成21年度より、京都市立の小中学校を訪問する「文化財に親しむ授業」を実施してきました。この授業で講師を務めるのは、博物館でスクーリングを受けた文化財ソムリエ（大学生・大学院生）です。授業では、屏風や掛け軸など、日本の古い絵画の高精細な複製を教室に持ち込み、鑑賞します。

文化財ソムリエはこれまで、たくさんの授業を行ってきました。その授業の中から、色々な作品に応用できる「鑑賞のヒント」12個を選びすぎり、ご紹介します。鑑賞の授業や校外学習などにお役立ていただければ幸いです。

1

第一印象を言葉にしよう！



ぱっと見てどんな感じがしたか、自分の気持ちに合う言葉をワークシートから選んでみましょう。自分で言葉を書き足してもいいですよ。

自分が感じた気持ちを言葉で表現するのは、大人でもなかなか難しい作業です。あらかじめ、形容詞やオノマトペの選択肢を用意しておき、そこから選ぶ方法にすると、子どもたちも、自分の気持ちを整理しやすくなります。

この活動でできること

- ・感じたことを言葉にする
- ・自分の感じ方と、他の人の感じ方の違いに気づく
- ・感じたことを表す言葉を見つける、新たに知る

ワークシート の一例

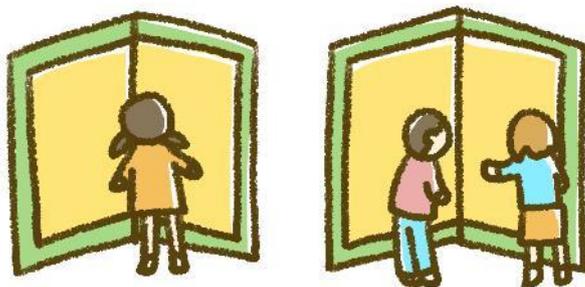
だい いち いん しょう 第一印象！

え みて ぴったりにくる こと ば 言葉があったら○をつけよう

ここにない こと ば 言葉を書きたしてもいいよ

はで		はやい		しっかり
ごうか		おそい		ゆるい
あかるい		こわい		ぼんやり
くらい	やわらかい	かわいい		
じみ	かたい		たのしい	
	おもい		かなしい	つよい
	かるい		びっくり	よわい

2 何が描いてある？ 観察しよう！



絵の中に何があるのか、じっくり観察して、見つけたものをみんなで教え合いましょう。一人では気づくことのできなかつたものに、気づくかもしれません。

よく知っているものについても「どうして〇〇だと思った？」と理由を聞くと、自分がどんな情報をもとに、そう判断したのか、論理的に考えて説明する練習ができます。

この活動でできること

- ・絵をよく観察する
- ・他の人の意見を聞く
- ・絵の全体を把握する
- ・自分が「〇〇だ」と思った理由を考え、説明する

3 今はいつ？ ここはどこ？ 考えてみよう！

絵の中の景色が「いつ」なのか考えてみましょう。季節はいつ？ 何時頃？ ひとつの季節や時間を表している絵もあれば、そうでない絵もあります。

また、描かれているものをよく観察して「どこ」なのかを考えてみましょう。身近な風景？ 遠い国？ もしかしたら、現実にはない場所を描いているかもしれません。



この活動でできること

- ・絵をよく観察する
- ・他の人の感じ方、考え方を知る
- ・得られた情報を整理して推測する

4 セリフを考えてみよう！



人や神様、生き物などが描かれた絵を鑑賞する時は、セリフを考えてみると楽しいですよ。何を思っているのか、何をしゃべっているのか、想像してみましょう。

いくつかの生き物が描かれている時は、彼らがどんな関係なのかも考えてみましょう。仲がいいのかな？ 悪いのかな？ これから何が起こるのかな？ 同じ絵を見ていても、人によって感じ方は違います。

この活動でできること

- ・絵をよく観察する
- ・他の人の感じ方、考え方を知る
- ・絵から気持ちや関係性を想像する

5 お話を聞いて、想像しよう！

昔の絵の中には、有名な物語や出来事を表したものがああります。絵を見る前に、題材となったお話を聞いて、「自分だったらどんなふうに描くか」を想像してみましょう。

想像した絵を、言葉や図を使ってみんなで発表してから、作品を見てみましょう。自分たちが想像した絵と、何が同じで、何が違うのでしょうか？ この絵の作者は、どんなことを表現したかったのか、考えてみましょう。



この活動でできること

- ・想像力を働かせる
- ・自分の考えと、他の人の考えの違いに気づく
- ・絵をよく観察する
- ・作者の工夫に気づく

6 絵の中を散歩しよう！



日本の古い絵の中には、美しい自然の風景を描いたものがたくさんあります。山や川を中心に描いた絵は、ぱっと見ると地味ですが、とっておきの楽しみ方があります。

絵の中に自分の分身を飛び込ませて、散歩を試みましょう。どんな道を、どんな順番で歩きますか？ 舟や馬に乗ってもいいですよ。途中で、どんな景色が見えるでしょう。どんな音が聞こえてくるでしょう。どんな人と出会うでしょう。それぞれが考えた「お散歩コース」や「旅行プラン」を、みんなで発表しあってみましょう。

この活動でできること

- ・絵をよく観察する
- ・想像力を働かせる
- ・他の人の感じ方、考え方を知る
- ・作品の新たな魅力に気づく

7 ポーズを真似てみよう！

描かれた人や、神様、生き物のポーズを真似てみましょう。もしかしたら、実際にはありえないポーズかもしれません。作者はどうしてこのポーズを選んだのか、考えてみましょう。

植物の形を、体を使って真似してみるのもいいですね。真似をすることで、描かれているものをよく観察して、特徴をとらえることができます。



この活動でできること

- ・絵をよく観察し、特徴を捉える
- ・緊張がほぐれ、作品に親しみを持つ
- ・作者の工夫に気づく

8

目に見えないものを想像しよう！



絵は「目で見て楽しむもの」ですが、目に見えないものも想像してみましょう。

- ・どんな音がする？
- ・どんなにおいがある？
- ・絵の中のものをさわったら、どんな感じがしそう？
- ・どんな気温？
- ・絵の外側はどうなっている？ 何がある？
- ・この場面のあと、いったいどうなる？

この活動でできること

- ・情報をもとに想像力を働かせる
- ・自分の考えと、他の人の考えの違いに気づく

9

比べてみよう！

比べることで、作品の特徴が分かりやすくなります。例えば次のようなものを比べてみましょう。どこが違って、どこが同じでしょうか？

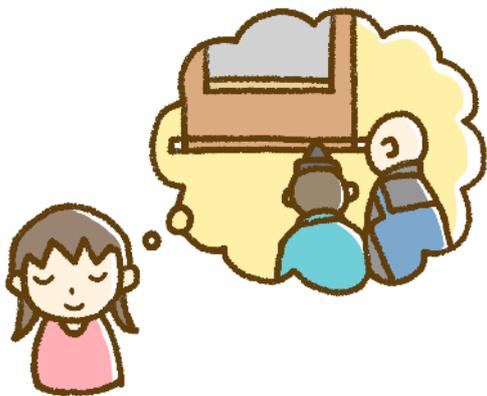
- ・作品を遠くから見る／近くから見る
- ・作品の右側と左側をくらべる
- ・同じテーマを描いた、違う人の作品と比べる
- ・同じ作者の、違う作品と比べる



この活動でできること

- ・違うところ、似ているところを見つける
- ・比較をすることで、作品の特徴を捉える

10 昔の人の気持ちを想像しよう！



作品が作られた時代のことを学んでから、もう一度作品を見てみましょう。この作品は、なぜ作られたのでしょうか？ どんな場所で作られたのでしょうか？ これを見た人は何を思ったのでしょうか？ 分かっている情報をもとに、考えてみましょう。

この活動でできること

- ・時代背景について学ぶ
- ・自分と違う価値観を持つ人の気持ちを想像する
- ・情報をもとに想像力を働かせる

11 どんな材料が使われている？

今の私たちは、クレヨンやペン、チューブに入った絵の具などを使って絵を描いていますが、昔の人は、どんな材料を使って、絵を描いていたのでしょうか。

日本では、きれいな石を砕いた「岩絵の具」や、動物の骨や皮から作る「膠」、松や油を燃やした煤を集めて作る「墨」、金を薄くたたいて伸ばした「金箔」などが使われていました。昔の絵の具の材料についても、学んでみましょう。



この活動でできること

- ・昔の絵具の材料について知る
- ・今と昔を比較する

12 色の見え方は人それぞれ！

人間には、2色型の色覚を持つ人と、3色型の色覚を持つ人がいます。多くの人が3色型の色覚を持っていて、ときどき2色型の人があります。どんな色覚を持っているかによって、色の見え方が違います。また、同じ型のなかでも個性があります。色の見え方は、人それぞれ違うのです。

日本では、男性の約20人に一人、女性は約500人に一人が、2色型の色覚を持つと言われています。つまり、40人のクラスの中には、一人は2色型の色覚の人がいることになります。絵の鑑賞をする時、色は重要な要素です。「いろいろな見え方の人がいる」ことを前提に、鑑賞の授業を計画すれば、より多くの人と一緒に鑑賞を楽しむことができます。



3色型



2色型 (P型)



2色型 (D型)



2色型 (T型)

※上の図は「色のシミュレータ」を用いた見え方のシミュレーション例 (色のシミュレータ <https://asada.website/cvsimulator/j/>)

鑑賞の授業をする時の工夫



四季花鳥図屏風

四季花鳥図屏風

色について話す時、「そう、白・緑・赤があるね」だと、その色が見えづらい人には、よく分かりません。「この布は白、体は緑、リボンは赤だね」などと言いながら指差せば、見え方が違う人たちの中でも、共通認識を作ることができます。

資料を提示する時は、「色だけに頼った方法」を避けるようにします。例えば、「赤字のところに注目！」は、赤色が見えにくい人には分かりにくい表記です。「線を引いたところに注目」などにします。